

ホームID	ホーム名		法人名			評価日		
2840	サン・ラポール南房総		株式会社サン・ラポール南房総			H29.2.10		
評価機関	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク					H29.2.24		
評価結果								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	B	B	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	B	2.3.7	A	B	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	A	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	A	C	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	C	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	B	2.4.1	A	C	6.2.9	B	B
1.3.3	A	A	2.4.2	A	B	6.3.1	A	C
1.4.1	A	A	2.4.3	A	B	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	C	C
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	B	B
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	B	B	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	B	B	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	B	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	B
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	B
2.2.3	C	C	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	B	A
2.2.5	A	B	5.1.1	B	B	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	B	B
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	B
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	B	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	C	C	5.2.5	B	B	7.6.3	A	B
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	B			
2.3.3	A	A	6.1.3	B	B			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-3-4	ホームの運営管理の円滑化と入居者の日常生活の向上を目的として、運営連絡会を設置している。運営連絡会会則で機能や目的、運営に関する事項を定め、入居者に明示しており、各館入居者の代表と館長等で構成され、毎月1回各館ごとに実施している。代表者が入居者の意見・要望を収集し、ホームに伝え、ホームで検討し、次回の運営連絡会で検討結果を報告している。入居者の意見・要望を把握し、サービス向上につなげている。
2-4-6	防災計画を作成し、それにもとづき火災・災害時の避難訓練を実施している。これに加え、毎月地震発生時の火災・停電時の対応等について、19時からの夜間の時間帯での防災訓練を実施している。夜間想定ではなく、実際に夜間に訓練を行うことで実践的な訓練となっている。入居者が夜間に災害が発生した時に適切に対応できる訓練を実施し、入居者が安全・安心に生活できるよう図っている。
5-1-2	入居者の食事に力を入れており、安価で美味しい食事の提供に取り組んでいる。食事アンケートを定期的に実施する他、年に2、3回開催する食事懇談会で要望の収集に努めている。さらに、意見箱に加え食堂の各テーブルには食事に対する意見書を備置き、入居者から意向を聞き取ろうとする姿勢が感じられる。配下膳に関わる職員も直接聞き取り、毎月の運営連絡会で検討課題にするなど入居者の要望にそった食事の提供に取り組んでいる。
6-2-8	全入居者や家族等に入居者の近況報告が必要か否かを調査し、必要と回答した家族等に対して、近況を報告している。診療所および介護職員が入居者の状況などを記した報告書とともに、運営連絡会の議事録や広報紙「サン・ラポール Mail」を送付している。さらに、家族等を対象とした懇談会を年1回開催し個別相談会を行う他、ハガキで納涼祭への参加を呼びかける等、入居者と家族の交流促進に努めている。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
1-2-3	ホームで取り扱う現金は、ホームで支払う消耗品等小口のものであり、館長が領収書と出金額との整合性をチェックしている。しかしながら、これらの経理管理の仕組みについて、明文化された経理規程等が整備されていない。経理業務の適正な管理を図るうえで、出納担当者と経理責任者の役割分担を明示し、経理責任者による管理のしくみを明文化した経理規程を作成することが望まれる。
2-4-1	入居者からの金品の授受があったときは、職員から報告をさせ、台帳で記録している。しくみとしては、整備されているがマニュアル等明文化したものは用意されていない。辞退することを原則とし、辞退することで入居者や家族との関係に影響がある場合は、丁寧にお礼を言い、今後気遣いのないよう伝えたい。これら一連の手順を明示したマニュアルを作成し、会議等で職員に周知を図られたい。
6-3-1	介護技術研修としては、入職時に実施するのみとなっている。また、業務マニュアルは作成しているが最小限の内容で文字のみで作られており、図や画像も取り入れるなどより活用しやすいマニュアルへの見直しが望まれる。研修は年に数回開催されているが、介護技術研修は行っておらず、今後は実践を伴った介護技術研修を職種・職階ごとに計画的に実施し、職員の介護技術について、さらなる向上が求められる。
7-4-5	排泄用具としてのポータブルトイレは備えている物を貸出し、高さ調節など入居者の身体に合うよう支援しているが記録に残していない。また、オムツやリハビリパンツ等の排泄用品の選定にも身体に合うものを取り入れようと、職員同士の会話の中で検討しているが、モニタリング等の経過記録は残していない。いつ誰がどのように対応し、最終的にどのようにしたかの結果を記録し、いつでも確認できるよう取り組まれたい。